

祇園祭の太子山とグリークラブ

昭和 51 年卒 田野耕樹

昭和 49 年 4 月にグリークラブは、世界大学合唱祭に参加のため一ヶ月間のアメリカ大陸横断の演奏旅行をしました。その翌年の 4 月に新入生が 30 名ほど入部。学生紛争以来、久々に多くの新入生が入部しました。この夏の演奏旅行は、京都から各地を巡り札幌までの予定でした。

しかし、これほど多くの新入生が入部することは想定外でした。この頃のグリークラブは、新入生全員を夏の演奏旅行に参加させることが慣例でしたので、全員参加となると貯めていた軍資金が足りません。そこで役員会を開き、新入生をセレクトするか、それとも全員参加させるかを図り、全員参加の方向で全会一致。

それから足りない分の軍資金の調達を始めました。グリークラブで引き継がれた「お座敷」（アルバイト）探しです。

その一環として、当時の演奏旅行マネージャーだった私が、大学学生課の掲示版に祇園祭の「太子山曳きて募集」を見つけました。4 団体が応募したため籤引きとなりましたが、幸いにも当たり籤を引き当てたのです。この籤運から、太子山とグリークラブの 47 年にわたるご縁が始まりました。

昭和 50 年 7 月 17 日。快晴。太子山に集合したメンバーは、町内の方々が見守る中、先ず町の古老から装束の着方、草鞋の履き方等を教えていただき、準備完了。

出発までには少し時間が有りましたので、町の保存会会長の許可を得て、カレッジソングや愛唱歌を数曲歌いましたが、町内の方々から大変喜ばれました。そして巡行から帰った時にも、数曲披露しました。グリークラブに脈々と引き継がれた体育会系のような礼儀正しさと私たちの歌を気に入って下さったのか、翌年からは籤取らずで、グリークラブに直接依頼していただくようになりました。参加したグリーメンにとっては、学生時代の京都での懐かしい思い出になったようです。

その後、30 年會を 7 月 16 日の宵山に催し、夕刻から太子山の町内でミニコンサートをさせていただいたり、グリークラブ 100 周年には、保存会会長をお招きするなどの交流を続けております。この太子山とグリークラブとのご縁が末永く続くことを祈念致します。